く實物 搾葉

ノ用意 角意 學科

3 ŀ

ŀ

h

緑白花ノモノヲ得タリ

がめくもまぐは(Saxifraga bronchialis L.)ハ從來表山ノ「八方瞰」ノ岩壁ニ知ラレiehii Makuno.)ニ似タル野生品ナリ此邊又こみやまかたばみ、てつかへでヲ産ス

大洞澤ニ入リテ俗稱「布袋ノ横這ヒ」ニ達セシ時余等ハたてやまうつぼぐお(Prunella prunelliforme MAKINO))\* | 「二釋迦」ニ得タリ蓋シ同山第二ノ産地歟 ひめしゃじん (Adenophora nikoensis Fr. ET SAV.) ノ純白花ノモノ幷ニくろくもごう (Saxifraga fusca MAXIM.)ノ タリ ŀ 雖 モ 今囘余等ハ之ヲ

## )某市小學校長會編纂『教授細目』中ノ搾葉ト筍等

| 當時ねこしでハ果實ヲ有シみやまままこなハ美花紅葉ヲ装ヒしさんからまつハ其亭々タル莖ヲ叢中ニ

抽きさ

ばいさう、うさぎぎく等ノ黄花岩罅ヲ領シ高山的美觀ノ自ヲ備ハレルヲ示セリ

横濱植物會會員 原 虎 之 助

驚キ入ッタ書キ方ヲシ 搾葉ヲ多數ニ用意 ルー書トナシ其 市 ・テア ノ市役所デ發行シ市内ノ各小學校ニ配布 jν , E 希望シテアル要スルニ是レハ一向ニ其要旨 1 ガ ルノヲ見 タ今其一二ノ例ヲ擧 ė シ グ モ v ヲ謹 /\<sup>n</sup> ガ徹 栗ヲ 底シテ居 ン デ邦讀 授ク jν = ナイ元來 當リ雌 ルニ 非

書中ニ

4. 隨分ト

科教授細目」ト題セ

雄花ノ附キタ

ル栗ノ

セ

3

ŀ

科

ナル

校

ノ梭長連

(ガ多數相集 距ル七里許

イテ多クノ貴重

ナル 開

時間ヲ消シ且多額

ノ費用ヲ擲チテ教授

ノ細目ヲ作リ之ヲ「小學校

東京ヲ南

ノ處ニ有名ナル

港場ガアル縣廳、

稅關

ナドモアッテ殷富

ナ

市ヲ

ナ

シテ居ル

同

市

ハ生キタル實物ニョリテ授ク 來テハ用意ノ ス w ノデアル、 仕方ガ寧ロ 叉搾葉 粗略 w ŀ , デアル余ヲシテ此 何 ガ最モ有効デ且最 事カ多分腊葉 事 モ生氣アル教授法 就キ 誤デアラウ 希望ヲ述ベ ト思 シ ラ ŀ ガ荷 ムル 謂 ネ ナラ ۳ 敎 ナラヌ 栗ノ花ノ 然

生き テ教

某市小學校長會編纂『教授細目』中ノ搾葉ト筍等

かガ解 一云フ義 方針 シ 得ヌ ラテ 字 <u>۔</u> サ ŀ ヹ ン ーニナ 搾葉 ŀ ス ŀ jν w **、** デアラ 書ケ 指 導者 、バ是 ガ此睹  $\tilde{\nu}$ ハ腊葉ノ誤 易キ文字ヲ誤 ツデ ァ jν χ ナ ŀ ŀ. 知ラヌ人々ニハ此搾り葉 رر 頗 iv 滑稽 デ r jν 否 ナ 極 トハ何ノコト 汊 テ | 疎漏 デ ア カ少シ jν 搾 ・モ其 L ぼる

變ジタモノデアル)ノ着キ方ハ1|2ノ互生デアル、聞ク肵 皮ノ組合方

ナラ

ヌコンナ筍ハ

世界中何處ヲ尋ネテモアルマイト思フ元來竹

テアル若シ之レニ據リテ畫カンカ忽チ其圖

次ニ圖畫科ニ於

**小テ筍** 

日ノ繪ヲ

書

声カシ

L

jν

=

一當リ左

ブ圖

ノ上者ノ

如

ク皮(突)

ノ組合

方ヲ一二ノ順序

畫

ケ

ŀ

文

**≥**⁄

ノ下者ノ

如

**ク** 

節

三三四枚ノ籜ガ

アリ

ソ

ウナ

箚

ガ出

來上

ラ 註

ネ

上ノ圖式、從ファ書キシ筍

シ ニ

3

IJ ッ

忽

チュ

此樣

ナ失體ヲ曝

露

w

コ

ŀ

ナ

タノデ

ノアル若

3

此書ニ盲從シ之

ヨレバ ハ禾本科 此 北書ヲ編 雅量 タソ ・ノ植物 モナク傲然ト其 ウデアル 纂 バデア ス w 際 jν ガ編 カラ其筍モ葉 相 マトニ其書ヲ出版 當研究者 其誤 ッ ジ忠告 (籜 ラ正 ス 葉 モ ァ セ

部 ヲ其 バ其生徒コソ 寄生デ出來タモ ハ蜂其他 7 7 用 、中テ ノ昆蟲ノ巢ナリ」 3 生徒 イ迷惑 ノデ昆 = 教授スル教員アレ アル 蟲 ハー切之レ ŀ ァ v ŀ Æ

jν

『係ハナイ之ヲ昆蟲ノ巢ダナドト云フノハヨイ加減ナ想像デアル 屯 ノハタダ本 ١, ノ方ガ全ク質シテ居ル モ是シモマ ズイ臺灣

場合モアルガ然シ多少中空ニナッテ居ルモノ デモ全然中實ナ竹ノ種類ハ無ィ同島ニハ刺竹ト呼ブ竹ガアッテ其稈ノ或ル 又同ジ第七頁ニ「竹ハ一般ニ中空ナリト雖モ臺灣産ノモノニハ中質ナルモノアリ」トアレ ガ多イ此ノ様ニ本ノ方ハ肉ガ厚クラ稈 3 ŋ 或 ハ全ク實シ或ハ

此つつじもちへ Exobasidium japonicum Shiral. ト稱スル餅病菌(植物)

右ノ外尚同書ノ第七頁ニ「つつじもちト稱スル葉肉ノ厚サデナリタ

7

・戸掘

ij

デ用

n

又第八 こ全然中實シタ竹 頁ニ ۱د 「にがな、 ァ w ガ 中 じしばり等」トアル此じしばりハ當ニぢしばりト 以上 種 類 ۱۰ ۱۷ ١, 臺灣デモ , 稈 デ Æ 見ラレナ 漸 Þ 肉 ガ 1 薄 N ŋ カリデナク恐ラクコン ナ ッ テ尋常 7 竹 1 書カネ 樣 = ナ竹 大 ナ ナラヌ是 ۸ w 何處 圶 洞 レハ地 モ ナ ァ ッ jν テ 海縛ノ 7 居 1 jν デアア 彼 籐爿 jν

カラデ r

叉第十 思 ŀ 種子 結實シ能 千八 , ガ是 ガ H 寅 來 ク  $\nu$ = ナ æ

フェ Ŀ · 頁ニ「かきつば 擧ゲ 種子ガ出來ル菊作 「觀賞用 クタ様 徹 才 底シ た タ書キ

菊

ハ花 太キ脈

部

變化甚ダ

` \*

・ク結實 ŀ

セ Ŀ

7)-モ

モ

ノ多

**≥** 

揷

ョリ

テ繁殖

アリ幅

廣

シ

ア

ν

かきつ

ばた

葉

=

۱ر

決

シ

テ

太

キ

脈

ナ

・方デ

ナ

イ、

菊ノ花ノ舌狀花

ニハ種 jν

マノ

ハアルガ大抵 一根分ケ

嚴存

乜

jν

中

113

花

共

y

此種子ヲ蒔テ變リ品ヲ

索ムル

事

ガ

アル 變化 為メニ

叉

/ 霸

积

分

插

何

モ ŀ

花

カ

ラ

デ

ラ

v

ン

= ア 潮ノ

ŀ .)V

ヲ

切

望

カラスル がナ滑稽 旧ヤ誤謬 方法 デ ハー日モ早ク訂正シ確實ナル智識ヲ少國民 · イ是レハ親木通リノ品種ヲ續 カシテ作り = 授 ダ オ ケ

)民間薬トシテあまどころ並ニおもと/功能

見分ケ ガ 出來ヌト見エ テ千葉縣 下 デ 共

=

あまどろ

横濱植物會會員

伊

藤

初

太

郞

あまどころ及 俗稱シテ居 ニシテ全癒スル

E,

ル

同地

方

テハ

皆此療

法決ヲ

角

中更

=

、手足ヲ挫キシ時其ピなるこゆりノ功能

**・時其局** 

所

へ該草 此

Ì

兩者

ハ

素人ニハ

地下莖ヲ擦リ潰シ之レニ少量ノ 醫薬ヲ顧 ミナ イ程デアル冬時 ニテ 糊ヲ加へ貼附 んご又ノ名 . در 豫ジメ該草自 v ロスル時 ઢ 實 ハ 僅 生 ブ地 地 カ數日 ラ覺

擦り もとノ功 潰 **V** 其 八汁ヲ 度 或ル人カラ 4 服 用 テ可 何 1 = 咳 = ŀ 7 聞 ラ 1 ズ咳 タ Ź ソ 出 = デ自 w 時 分分 ڏر おもとノ根即 ハ之ヲ實驗シテ見 チだ タ ガ 頗 w 能 ク 利 タ 即 チ其法

民間楽トシテあまどころ並ニおもとノ